

NPO 法人岡崎がくどうの会

第 58 回全国学童保育研究集会（20231104~20231105）レポート

【クラブ】（つくしクラブ）

【名 前】（遠山 祥子）

① 2 日目に参加した分科会のタイトルをお書きください。

第 19 分科会『子どもの気持ちに気づく-家庭で、学童保育で-』

第 20 分科会『性について考える』

② 2 日間の全体会と分科会で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

第 19 分科会では子どもの気持ちについて学びました。

まずは子どもの気持ちに気づける大人になるには、自分の気持ちに気づくことが大切だということでした。

自分に余裕がなければ、人の気持ちには気づけません。

子育てを経験した自分自身も、自分に余裕がないと子どもに当たってしまったり、うまく回らず悪循環になってしまった経験が何度もありました。

頑張ってる自分自身を褒める事、職場の大人同士で褒め合う事、辛い時は人を頼り支え合う事が大切だと学びました。

人を頼り支え合う姿を子どもたちに見せることで、人は支え合って生きていくんだよ！ということをお伝えられると言う、先生の言葉はとても私の心に響きました。

ワンオペ育児という言葉をよく聞きますが、なかなか人に頼ることが出来ない環境で子育てしてる家庭もあると思います。

そういう家庭にとっても学童保育所が頼れる場所になれるといいなと思います。

そして、子どもたちにぼーっと出来る場所、安心できる場所、『ここにいてもいい』と思える場所を与えてあげられるように、心に余裕を持って子どもたちに接して行きたいと思いました。

そうすることで子どもたちのちょっとした悩みや家庭での背景、SOS を見つけやすくなるのではないかと思います。

子どもたちから信頼される指導員になれるよう、自分自身が心に余裕のある大人になりたいと思いました。

第 20 分科会では性について学びました。

学童保育所で務めていると、子どもたちからドキッとするような質問をされて、返答に困ることが時々あります。そういったときの対応についてとても参考になりました。

例えば『下ネタ』→その言葉を聞きたくない人もいるよ。

『自慰行為』→大切な場所だから誰かのいるところで見せたり触ったりしないようにしようね。

『セックスしたことあるの?』→プライベートなことだから、答えたくないよ。  
焦ったり迷ったりではなく、子どもと向き合う事。嘘をついてごまかしたりしないことが大事だと学びました。

距離感については、指導員と子ども、子ども同士でもパーソナルスペースには注意を払わなければと思いました。

高学年の異性が指導員のひざに座る。こどもが懐いてひっついてきてくれるのは嬉しいですが、保護者の目もありますし、わたしは高学年の異性が膝に座ってきた時は、上手く退かすようにしています。

子ども同士でも、低学年はまだ幼く、好きだからという理由で、密接距離で引っ付いているということがありました。両方が良くてひっついているのではなく、片方は嫌がっている状態です。

ひっついて行く方の児童には、今回の研修で学んだ、友達との距離感を伝えました。

研修を受けた直後の出来事だったので、きちんと対応することができ、とても勉強になりました。